

福島ロータリークラブ会報



持続可能なインパクトを生み出そう

■ <http://www.f-rotary.com/>



[ホームページ]



[Facebook]

2026年

7月30日(木)

vol. 04

■例会場／福島市野田町1丁目10-41 エルティ ■例会日／木曜日12:30
■事務所／福島市万世町2-5 福島銀行本店内9F ■TEL.024-536-1010 FAX.024-536-1011
■mai / f-rotary@guitar.ocn.ne.jp info@f-rotary.com

本日のプログラム

- 新会員スピーチ SMBC日興証券福島支店 支店長 増井裕康 会員
- 会員スピーチ 「母子と健康」月間にちなんで 佐藤美奈子 会員

会長あいさつ



2026-27 年度会長 横山 淳

はじめに、この度の熊本の災害で不幸にも犠牲になった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。1日も早い復興を切に願うものです。

改めまして皆さま、こんにちは。本日もご出席いただき誠にありがとうございます。

また今日は福島21ロータリークラブの菅藤会長、国分幹事をはじめ9人もの会員の皆さまにご足労で参加いただき誠にありがとうございます。早速にクラブの活性化にご協力ありがとうございます。

さて、7月は、ロータリーにおいて「母子の健康月間」とされています。今日は後程、佐藤美奈子会員に関連したお話もしていただきます。

「母子の健康月間」というこのテーマを最初に見た時、「自分には少し遠い話かな」、また「もう少し若い世代のテーマかな」と一瞬思いました。しかしよく考えてみると、私たちは皆、例外なく「母子健康の成功事例」でここに座っているのではないのでしょうか。と言うのも私たちは誰もが皆、かつては「守られる側」だったのではないのでしょうか。今こうして元気に例会に出席できているのも、母親あるいはそれに代わる存在の支えがあったからこそだと思います。そう思うと身近なテーマに感じてくるのではないのでしょうか。

また、福島という土地を考えると、震災以降「命」や「健康」という言葉の重みを誰よりも感じてきたのではないのでしょうか。母が子を守り、家族が支えあい、地域が子供を見守ってきた、そうした積み重ねが今の福島を支えていると思います。「母子の健康」という言葉は、健康とは単に個人の問題ではなく、「次の世代へつなぐ大切な社会基盤」なのだと改めて感じます。しかし世界に目を向けますと、いまだに多くの地域で、安全に出産できない環境や、適切な医療を受けられない母子が存在しています。ロータリーはそうした現実に対して、予防接種の推進や医療支援など、具体的な行動を続けてきました。

日本にいる私たちにできることは何か。それは決して大きなことでなくても、身近な人の健康を気遣うこと、この福島の地で、未来を担う子どもたちが安心して育ち、また次の世代を守っていく、そんな環境に関心を持つことではないかと思っています。私には残念ながら子供はいませんが、「次の世代のためにできることをする、そのためには私が元気でいること」と思っております。

この「母子の健康月間」をきっかけに、私たち一人ひとりが、身近な命、そして未来を担う子どもたちに思いを馳せることとなればいいと思います。さて、思いつくまま長話をしてしまいましたが、本日のお食事は相良SAAの発案の「うなぎ」です。用意も宜しいようですのでこれを持ちまして会長あいさつといたします。本日もよろしくお願いいたします。

例会次第

- ロータリー・ソング
「福島ロータリークラブの歌」
ソングリーダー 大槻美恵子 会員



大槻美恵子 会員

- お客様並びに来訪ロータリアン紹介
相良元章 SAA

福島21ロータリークラブ	
会長	菅藤裕之 様
幹事	国分秀晃 様
会長エレクト	菱沼勝秋 様
バスト会長	小林利光 様
親睦活動委員長	勝嶋正幸 様
職業奉仕委員長	吉川末枝子 様
青少年奉仕委員長	梅津弥生 様
社会奉仕委員長	大内友恵 様
会報広報IT委員長	霜山辰也 様

- ロータリー財団伝達
ベネファクター
佐藤美奈子 会員・善方邦彦 会員
PHF
佐藤充孝 会員



菅藤裕之 会長

- 福島21ロータリークラブ
菅藤裕之 会長 あいさつ

- 各委員会報告
例会小委員会 ニコニコBOX担当
氏家有紀 委員



氏家有紀 委員

幹事報告

- 8/23(日)ロータリーリーダーシップ研究会(RLI)第9期パートIが開催されます。ご案内をお送りしておりますので、参加ご希望の方は事務局までお知らせください。
- 8/26(水)横山会長、藤井幹事が東京RCへのメークアップを予定しております。参加ご希望の方はお早めにお申し込みください。
- 8/2(日)郡山ユラックス熱海にて「社会・国際奉仕委員会・ロータリー財団委員会合同セミナー」が開催されます。当クラブより右近八郎PG、後藤忠久地区社会・国際奉仕委員長、相良元章地区R財団委員、本多修一朗地区R財団委員、八巻恵一会長エレクト、渡辺健寿R財団委員長、鈴木朋恵社会奉仕委員長が出席いたします。
- 8/2(日)米山記念奨学会生カウンセラー研修会が開催されます。当クラブより箱岩偉カウンセラー、井田裕子カウンセラーが出席いたします。
- 8/6(木)の納涼家族夜間例会は会場がセント・ヴェルジェ教会となりますのでお間違いないようお願いいたします。また、8月の例会場につきまして、エルティが改装工事となりますため、すべて移動例会となります。詳しくは8月プログラムにてご確認ください。
- 7月ロータリーレートは1ドル162円となりますのでお知らせいたします。



藤井 守 幹事

本日のプログラム

新 会 員 ス ピ ー チ



SMBC日興証券福島支店
支店長

増井裕康 会員

皆さま、こんにちは。

ただいまご紹介いただきました、SMBC日興証券の増井裕康と申します。4月23日より、丹治正博様のご紹介で、歴史と伝統ある福島ロータリークラブに入会させていただきました。本日は、新入会員としてご挨拶の機会をいただき、誠にありがとうございます。まだまだ至らない点も多くございますが、福島ロータリークラブの皆さまとご一緒できることを、心よりうれしく思っております。本日のスピーチでは、私がどのような人間であるかを少しでも知っていただけるよう、生い立ちからこれまでの歩み、そして私が大切にしていることを、簡単にお話ししたいと思います。

まず、私が所属しておりますSMBC日興証券について、簡単にご紹介いたします。

当社は1918年に川島屋商店として創業し、2009年よりSMBCグループの一員として歩んでおります。現在は、個人のお客様・法人のお客様に向けて、幅広い金融サービスを提供しています。私が勤務しております福島支店は、1949年に福島出張所が開設されて以来、77年にわたり地域の皆さまに支えられてきた、歴史ある支店です。福島という地域で仕事をさせていただく中で、感じるのは、人と人との距離の近さ、温かさ、そして地域を大切に作る気風です。この福島で、金融の仕事を通じて少しでもお役に立てるよう、日々努めております。

私は昭和56年6月、東京都荒川区で生まれました。祖父、祖母、父、母、姉、兄、私の7人家族で、にぎやかな家庭の中で育ちました。父と祖父は町工場として溶接業を営んでおり、祖父は地域の消防団にも所属して、地元のために尽力していました。子どもの頃から、私はそうした大人たちの背中を見て育ちました。

誰かのために働くこと、地域に貢献すること、そして誇りを持って仕事をする。そうした姿勢を、自然と学んだのだと思っています。また、私の育った地域はお祭りが盛んで、子どもの頃からお祭りが大好きでした。今でもその気持ちは変わらず、地域の行事や人のつながりには、強く惹かれるものがあります。

もうひとつ、幼い頃から大きな影響を受けたのが、野球です。祖父の影響もあり、小さい頃からプロ野球が大好きでした。3歳の誕生日プレゼントが野球のヘルメットだったという話は、家族の中でもよく語られます。当時から野球観戦が大好きで、後楽園球場にもよく連れて行ってもらっていました。今振り返ると、私の子ども時代のアルバムは、野球場の写真ばかりです。子供ながらに野球を通じて感じたのは、一人の力ではなく、チームで戦うことの大切さです。また、好きなことを長く続けることで、自然と努力や我慢も身についたように思います。

小学校3年生のときに少年野球チームに入りました。父母の応援やサポートを受けながら、毎日のように野球に励んでいました。その頃は、勝つことももちろんうれしかったのですが、それ以上に、仲間と一緒に練習し、試合に臨み、喜びや悔しさを分かち合うことが、私にとって大

きな財産でした。また、小学校高学年の頃には西武ライオンズのファンでもあり、母によく所沢の西武球場に連れて行ってもらっていました。秋山選手や辻選手に憧れていたことを、今でもよく覚えています。子どもの頃に見た憧れの選手たちの姿は、努力を続けることのかっこよさを教えてくれたように思います。

中学に入ると、野球部がなかったことや、当時のJリーグ開幕の流れもあって、サッカー部に入りました。野球一筋だった私にとっては新しい挑戦でしたが、結果的には大きな経験となりました。中学3年生ではキャプテンも務めました。

また、体が小さかったので、運動会の組体操では、当然のように一番上の段を任されました。今思うと、当時の経験も、ある意味では責任の重さを学ぶ機会だったのかもしれない。サッカーを通じて学んだのは、仲間との信頼関係、役割分担、そして自分の持ち場で力を出し切ることの大切さです。この考え方は、今の仕事にもつながっていると感じています。

高校は法政大学第二高等学校に進学し、サッカー部に入部しました。約50名の新入生が入部し、部全体では100名ほどいる大所帯の部でした。その中で一番印象に残っているのは、高校3年生のときに神奈川県大会で2位となり、関東大会に出場できたことです。結果としては悔しさもありましたが、この経験を通じて、チームで戦うことの重み、そして自分の役割を最後まで果たすことの大切さを強く感じました。関東大会やその後の大会を通じて、勝つことの喜びだけでなく、負ける悔しさも経験しました。それでも、仲間と一緒にやり切った経験は、今でも自分の支えになっています。

大学では、勉学を第一にしながら、友人たちと食事やお酒を囲んで語り合う時間も多くありました。そうした時間の中で、さまざまな価値観に触れ、人との信頼関係を築くことの大切さを学びました。また、大学では「勉強も遊びも中途半端にしない」という意識で過ごしていました。学生生活を通じて、知識だけでなく、人との距離感や相手を尊重する姿勢も身についたように思います。

2004年3月に法政大学経営学部を卒業し、4月から社会人生活が始まるにあたって、黒髪に戻したことも、今となっては懐かしい思い出です。

社会人としてのスタートは、2004年の新入社員研修でした。同期とともに厳しい研修を受け、社会人としての基礎を学びました。振り返ると、学生時代までは「自分がどうしたいか」が中心でしたが、社会人になってからは、相手の立場に立って考えること、責任を持って行動することの重さを強く感じるようになりました。その後、各支店での営業や法人部門など、さまざまな部署を経験し、人との関係づくりや状況に応じた対応の大切さを学んできました。

現在は福島支店長として勤務しております。福島で仕事をさせていただく中で、改めて感じるのは、地域に根ざして誠実に向き合うことの大切さです。金融の仕事は、単に商品やサービスを提供することではなく、お客様の人生や事業、そして将来に関わる責任のある仕事だと感じています。だからこそ、私はこれからも、一つひとつの出会いを大切にしながら、信頼していただける存在でありたいと思っています。

本日はご清聴いただき、誠にありがとうございました。



佐藤美奈子 会員

今月は「母子の健康月間」です。本日は、創立75周年記念事業で実施した「ベビースタイ寄贈事業」について、ご報告いたします。

皆様にも以前お話ししましたが、福島市では、生後4か月の赤ちゃんがいるご家庭を保健師さんや「こんにちは赤ちゃん応援隊」の皆さんが訪問しています。産後うつや、お母さんの孤立は深刻な社会課題となっています。創立75周年にあたり、福島ロータリークラブとして、地域の子育てを応援できることはないかと考え、この事業を企画いたしました。当初は、おむつなどの育児用品を寄贈することも考えました。しかし福島市健康福祉部にご相談したところ、おむつは保管場所や在庫の問題があり、むしろ「ベビースタイや歯ブラシ、スプーンなど、日常的に使えて会話のきっかけになるものがある方がいい」とのお話をいただきました。

そこで日常的に使え、長い期間使用できるベビースタイを寄贈することにしました。ロータリークラブ女子会で提案したところ、「既製品を購入して、寄贈するのでは意味がない」「シングルマザーや知的、身体的、精神的障がいを抱える方たちが就労する福島市内のB型支援施設などで製作していただいた方が地域にも、弱者にも寄り添うことができる」ということで、今回福島縫製福祉センターに製作を依頼いたしました。

洋裁が得意な森岡会員には、お忙しい中、お孫さんが愛用しているスタイの型紙をいただき、布の選定にもご提案をいただきました。また、色合いとデザインについてはクラブの女性会員、市役所健康福祉部の女性職員、そして福島縫製福祉センターの皆様と一緒に、男の子でも女の子でも使いやすい優しいものを選びました。また、赤ちゃんは「かわいいね」と声を掛けられる機会が多い一方で、お母さんは頑張っているのに褒められる機会が少ないという思いから、メッセージカードも添えました。

カードには、「お子様のお誕生日おめでとうございます。皆様はお子様の笑顔にたくさんの幸せを感じながらも日夜眠れぬ忙しい日々をお過ごしかと思います。皆様のお子様が健康で元気に育つことを願っています。このベビースタイを使っていただけると嬉しいです。福島RC会員一同」というメッセージを貼付いたしました。市役所での贈呈式後、渡辺泰子会員と「こんにちは赤ちゃん訪問」に同行させていただき、その事業の様子、ベビースタイを実際に渡す瞬間を拝見させていただきました。とても和やかな雰囲気、スタイが渡されたことを記憶しています。

実施後、福島縫製福祉センターからは、「夏から秋は、仕事がない時期だったので大変助かりました。地域の皆さんに応援していただき感謝しています」「RCから新規の仕事をしていただき感謝しています。地域で私たちを応援していただきありがとうございます」という感想をいただきました。

また、保護者からは、「かわいいデザインで嬉しいです」「スタイは何枚あっても助かります。ちょうどよだれが増

えてくる時期なので、とても嬉しいです。さっそく使わせていただきます」などの嬉しいコメントが多数寄せられています。

訪問した応援隊からは、「プレゼントをお渡しすることで訪問を温かく受け入れていただきやすくなりました」「スタイをきっかけに保護者の方と会話が弾み自然なコミュニケーションに繋がっています」「保護者の皆様に喜んでいただき訪問の良ききっかけになっています」と嬉しいお話もありました。

市役所からは、「地域から子育てを応援する、地域とつながるこんにちは赤ちゃん訪問がより心のこもった訪問となった」「性別を問わず使いやすいデザインと優しい色使いで多くの保護者の方に好評です」「赤ちゃん訪問の際にお渡しすることで、保護者の方との会話のきっかけとなり、訪問をより和やかな雰囲気で行うことができました」「今回の寄贈を通じて地域子育て家庭を支えて下さる団体があることを知っていただく良い機会となったと感じています」「RCの活動を紹介する簡単な添え書きも添えられているとよいと感じました」「スタイは、子育て家庭への支援だけではなく、地域全体で子ども達の健やかな成長を見守る機運の醸成にもつながる意義ある取り組みと感じました」など温かい感想と提案もいただきました。

今回の寄贈を通じて、市役所からは、「子育てを温かく見守り育む地域づくりに努めてまいります。皆様の温かいご理解とご支援に大変感謝しています」と嬉しいコメントもいただきました。

今回の事業は、子育て家庭への支援だけではなく、障がい者就労支援、地域とのつながり、そして地域全体で子どもたちを見守る機運づくりにもつながる、大変意義深い事業になったと感じています。

横山会長からは、規模は少し小さくなりますが、今年度もこの事業を継続していきたいというお話をいただいております。今後、理事会での協議となりますが、ぜひ会員の皆様にもご理解いただき、本事業へのご協力をお願い申し上げます。

また、この事業は企業や団体の皆様にもご参加いただけます。今回スタイの裏面には、ロータリークラブのロゴと名称を入れましたが、アイロンプリントになっていますので、企業名などを入れることも可能です。地域貢献事業として、クラブと一緒に応援していただくこともできますし、ご寄付という形でご支援いただくことも可能です。

また、企業や各団体で、社会貢献事業の中で、実施していただくことも可能です。支援の輪が広がれば、100枚が、200枚、300枚と増えていきます。クラブを超えて、福島市内で、母子を応援できたら素晴らしいと思います。「継続は力なり」という言葉があります。一人ひとりの力は小さくても、続けることで地域に大きな安心と笑顔を届けることができます。どうか本事業へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、この素晴らしい事業の継続を決断してくださった横山会長をはじめ、ご協力いただいたすべての皆様に心より感謝申し上げ、私からの報告とさせていただきます。

ありがとうございました。

お客様並びに来訪ロータリアン紹介



■福島21ロータリークラブ

会長	菅藤 裕之 様
幹事	国分 秀晃 様
会長エレクト	菱沼 勝秋 様
バスト会長	小林 利光 様
親睦活動委員長	勝嶋 正幸 様
職業奉仕委員長	吉川末枝子 様
青少年奉仕委員長	梅津 弥生 様
社会奉仕委員長	大内 友恵 様
会報広報IT委員長	霜山 辰也 様

私の一言



福島東稜高等学校 理事長
小原 敏 会員

クマからの警鐘

昨年、国連グテーレス事務総長が地球沸騰宣言をして、世界中を席卷しました。国際ロータリークラブの大きな目的の一つは世界平和です。それを世界の大国の独裁者達が戦争や紛争で、なし崩しにしています。その影響により地球温暖化までも加速させています。一方で、だいぶ前から世界中でSDG's持続可能な開発目標を掲げて、全世界の様々な分野で世界が連携し合い懸命な取り組みを実行してるのも事実です。「今、世界に冠たるロータリアンがその叡智を結集して一部の覇権主義者達へ彼等の良心を呼び覚ます強力な平和のメッセージを発信しなければ、人類、果てや地球の未来は危うい」と、人里に出没しているクマの嘆き？

ロータリー財団伝達



■ベネファクター PHF
佐藤美奈子 会員・善方邦彦 会員
佐藤充孝 会員

ニコニコBOX報告 本日の投入額 48件

■報告 氏家有紀 委員

【お客様メッセージ】

■菅藤 裕之 福島21ロータリークラブ会長

本日は、福島ロータリークラブ様について勉強させていただきました。よろしくお願いいたします。

■国分 秀晃 福島21ロータリークラブ幹事

【メッセージ会員】

■井田 裕子 会員

平賀源内（ひらがげんない）の作戦大成功！
うなぎ屋は大感謝！

■岩見 孝之 会員

うなぎ例会、楽しみです。

■氏家 有紀 会員

エルティ、8月1ヶ月お休みとなります。今回は厨房設備を修繕いたします。9月から新しい厨房からよりおいしいお食事をご提供してまいります。

■小原 敏 会員

この度の全国大会では東稜男女バスケ部に対して多くの会員の皆様のご支援で声援ありがとうございました。男女共2回戦敗退でしたが悔いのない精一杯の戦いぶりでした。

■沖田 昭 会員

初めての通常例会参加となります。宜しくお願いいたします。

■後藤 忠久 会員

増井会員のスピーチに期待して！

■佐藤 美奈子 会員

母子と健康月間にちなみスピーチを行います。
今年度もベビースタイを宜しくお願いします。

■菅沼 裕 会員

うなぎ例会、メッチャ豪華ですね。

相良 SAA、来週はおにぎりのみですか？

■相良 元章 会員

菅沼先輩へ。来週は『おにぎりだけではありません。たくわんが2きれ付きます。』

■善方 邦彦 会員

うなぎ！うなぎ！うなぎ！

■丹治 正博 会員

増井会員のスピーチに期待して。

■箱岩 偉 会員

21RCのご来訪を歓迎して。

■増井 裕康 会員

本日は新入会員スピーチをさせていただきます。
どうぞ、よろしくお願いいたします。

■渡邊 又夫 会員

競馬楽しむ会に東京の友人3名を案内して、大変喜ばれました。有難度うございました。今月、左右両目の手術を受け、ほぼ以前の視力に戻りました。数々の失礼をお詫びしながらお知らせまで。

■藤井 守 幹事

福島21ロータリークラブ様のメーキャップを歓迎して！

■他に 安藤正明／安部 守／内池 浩／大槻美恵子／大橋真孝／小原孝嗣／加藤裕司／小林仁一／佐藤永之／佐藤久典／佐藤英典／佐藤充孝／佐藤 有／佐藤良智／菅原高志／鈴木朋恵／高橋淳一／坪井大雄／仲尾雅至／浪木克文／野地大輔／本多修一郎／本田裕一／三宅一秀／村上守人／村山由美子／森下謙太郎／八巻恵一／山野辺宏／横山 淳／吉田大樹